

善通寺市立竜川保育所

1 本所の教育

保育目標 ○ 一人ひとりの子どもが認められ、お互いに育ち合う生活づくり

- 方針**
- 温かく見守られているという安定した環境の中で、一人ひとりの子どもを深く観つめながらその子らしさを大切にかかわっていき、自尊感情を育てていく。
 - 生活リズムを重視して『よく食べ、よくあそび、よく眠る』子どもになるように援助する。そして、〈自分でやってみよう〉とする気持ちを大切に、基本的な生活習慣や態度が身につくように働きかける。
 - 一人ひとりの子どもを認め合い、仲間同士励まし合ったり、助け合ったりしながら〈人とかかわることを喜びとする子ども〉に育てる。
 - 遊びや手伝いなど、豊かな生活体験を通して「なぜ?」「どうして?」と
好奇心を旺盛にし、しっかりと見る目、豊かに感じる心を育てていく。
 - 友だちや保育者とのかかわりの中で、自分の思ったことや感じたことをことばや体で表現したり、人の話を注意して聞こうとしたりする子

2 幼児数

平成 30 年 1 月 9 日現在

年齢	0 歳児	0・1 歳児	1 歳児	1・2 歳児	2 歳児	合計
クラス名	赤	桃	黄	青	緑	
幼児数	11	15	15	17	24	82

3 特色ある保育活動

- ・中学生、高校生、大学生とのふれあい（ボランティア・職場体験）
- ・人や自然とのふれあいの体験から感じる心を大切にする。（豊かな感性）
- ・世界でたった一つの宝物作り（家族の人の手作り作品）
- ・丈夫な心と体づくり（元気な土作り・楽しい食事）
- ・手作りみそ作り（年 2 回・味噌おにぎり試食会）
- ・福寿会との交流（地域のお年寄りとのふれあい）
- ・おしゃべり広場（保護者同士の仲間づくり）
- ・保・幼・小との交流（公民館まつりなど）
- ・絵本の読み聞かせ



4 実践事例

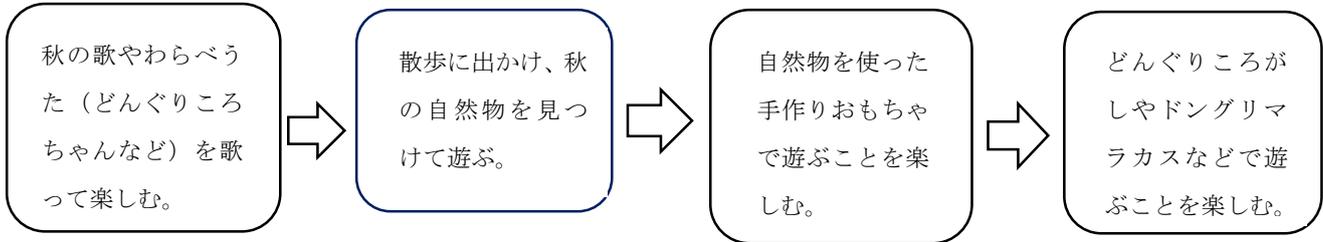
(1) 保育所の日

時 間	内 容 (月～金)	内 容 (土)
7:00～ 8:30	順次登所 検温 (0 歳児) ・触診・視診・好きな遊び	7:30～ 順次登所 検温 (0 歳児) ・触診・視診・遊び
9:30	排泄・手洗い (3 歳未満児午前のおやつ) 年齢に応じた遊び 室内遊び・屋外遊び・園外保育など	排泄・手洗い (3 歳未満児午前のおやつ) 年齢に応じた遊び・異年齢保育 室内遊び・屋外遊び
11:00 12:00	排泄・手洗い (昼食準備) 昼食	排泄・手洗い (昼食準備) 昼食
12:30 13:00	片付け・歯磨き・排泄 (午睡準備) 午睡	片付け・歯磨き・排泄 (午睡準備) 午睡
15:00 15:30	目覚め・排泄 (間食準備) 間食	目覚め・排泄 (間食準備) 間食
16:00～	検温 (0 歳児) ・触診・視診・好きな遊び 順次降所	検温 (0 歳児) ・触診・視診・好きな遊び ～18:00 順次降所
18:00～ ～19:00	延長保育 延長保育児 軽食 降所	* 土曜日は 7:30～18:00 までで 延長保育はなし



(2) 0・1歳児 もも組 保育指導案

1. 日 時 平成29年11月7日(火) 10:00～10:45
2. 場 所 もも組 保育室
3. 題 材 『いっしょに あ～そ～ぼっ♡』
4. ねらい 保育者や友だちと一緒に、わらべうたあそびや手作りおもちゃで遊ぼう。
5. 対象児 (0歳児) 男児1名 女児3名 (1歳児) 男児5名 女児6名 計15名
6. 遊びの流れ



7. 活動内容

時間	子どもの活動	援助・配慮	環境
10:00	○排泄を済ませた子から、保育者と一緒に座布団に座り手遊びをする。 ○絵本の読み聞かせや、わらべうた遊びを楽しむ。 絵本『おいもさんがね』 ♪『うちのうらのくろねこ』 ♪「どんぐりころちゃん」	○数人ずつトイレコーナーに誘い、それぞれの発達にあわせて、オマルで排泄したりおむつを替えたりする。はきやすいようにズボンにそっと手を添える等して、自分でやってみたい気持ちを大切にしていく。 ○ゆったりとした声で読んだり、歌ったりして、心地よさを感じられるようにする。子どものつぶやきに応えながら、一緒に楽しむ。 ○お話に興味を持てるようペープサートを用意する。	・長座布団×3 ・絵本『おいもさんがね』 ・どんぐりペープサート ・ネコのパペット
10:15	○保育者や友だちと一緒に、好きな遊びを楽しむ。 ・どんぐりころがし ・どんぐりマラカス ・にんぎょう遊び など	○一人ひとりの遊びが十分楽しめるように、室内を広く使って楽しむ。 ○自分で好きな遊びを選んで遊べるよう、手に取りやすい所に置いておく。 ○それぞれの遊びの面白さを共有しながら、一緒に遊ぶ。 ○「コロコロするね」など子どもにわかりやすい言葉で伝えたり、子どもが伝えようとしている事を、言葉を添えて受けとめたりして、共感する。 ○おもちゃの取り扱いなどトラブルになった時は、お互いの気持ちを代弁しながら、丁寧に仲立ちしていく。	・どんぐりのガチャガチャケース ・転がし台 ・どんぐりマラカス ・手作りにんぎょう ・にんぎょう用布団
10:45	○保育者と一緒におもちゃの片付けをして、次の活動に移る。	○歌声で誘いながら、楽しんで片付けができるようにする。	

8. 評価 保育者や友だちと一緒に、わらべうたを楽しめたか。手作りおもちゃを使って、あそびが楽しめたか。



(3) 実践を通して

- ・いつもと違う状況でも泣いたりすることもなく、遊びを楽しんだり、人見知りの時期の子どもたちも担任がそばにいと、気にしながらも遊んだりする姿から、成長を感じた。
- ・季節のわらべうたや散歩、外あそびを通しての経験と製作あそびや手作りおもちゃが子どもたちの興味や発達に合っていたと思う。保育者間でアイデアを出し合ってさまざまな視点から、子どもの興味・関心について考えることができた。
- ・0・1歳児と他のクラスとのあそびの共有を、これからたくさんしていきたい。

5 幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 本事業も2年目が終わり、今年度は全クラスの保育をみていただき年齢ごと、発達に応じたご指導やご助言をいただくことで、保育者自身も自分の保育を見直す良い機会になった。前回よりもたくさんの保育者が協議に参加でき、アドバイザーの先生方の温かい励ましの助言をいただき、保育の自信につなげていけている。また、今回は、保育開始時間を早めていただいた事で子どもたちの生活をより深く見ていただくことができた。そして保育者の対応や子どもにとっての最良の環境（人的・物的）とはどういう事かを考えながら、保育の向上に努めたいと思う。また、他の保育所・幼稚園に見に行かせていただいた事で、自分の保育を振り返る機会となった。

【課題】

- 今回の構築事業の指導訪問を通して、ご助言いただいた事を全保育者で確認し、今後の保育につなげていく。
- 午後からの協議には、できるだけ多数の保育者が参加できるように工夫していきたい。
- 指導案や援助・配慮をより適切に書けるように保育者で意思統一し計画していきたい。そうすることによって、より一層、保育の質が高まるものと考えている。

カナン子育てプラザ21

1 本園の教育

- 子どもが将来成長した時、より積極的に社会に関わるときに必要な心と知恵・生きていく力そして、豊かな感性と深い愛情をもった人間として育つ保育をする。
- かけがえのない子どもの一人ひとりの人格形成の基礎を培う大切な時期であることを保育に携わる者は意識し、愛に満ちあふれた幼児時代が過ごせるようにする。

2 園児数

平成30年1月9日現在

年齢	0歳	1歳	2歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
クラス名	ことり	りす	こあら	ぱんだ	きりん	ぞう	らいおん	
園児数	11人	23人	12人	16人	20人	23人	22人	127人

3 特色ある保育活動



なんだ？



？



思いのぶつかり

自分の世界を楽しむ



思いきり身体を動かす



あっ！

山の空気は違う



みてみて



雪を体験

バースティランチは特別



心動く日々の活動

4 実践事例

(1) 保育指導案

3歳 きりんぐみ 2017年 11月 3週 (13日~18日)

選のねらい	先週の子どもの姿 (before)	予想される幼児の活動 (after)	保育者の関わりと配慮点	子どもの姿 (結果) どのように関わったか (評価)
<p>○戸外から帰ったら、手洗いうがいをして清潔に保つ。</p> <p>○友だちとのやりとりや絵になりきることを楽しむ。</p> <p>○体を思いきり動かしたり、「こうして…」動かす。</p>	<p>“たのしいなあ!”</p> <p>13日「ぼくはぼくはぶんぶんしたい!!」とお庭のしみっこをやる。自分の好きな絵になりきって友だちや保育者とのやりとりを楽しむ。物語に合わせて口調を変えてしゃべったり、物語のフレーズを友だちと声を合わせて話すことを楽しんでた。</p> <p>“だいじょうぶかな…”</p> <p>17日「積み木を交互に並べて積み、そこから一つずつ崩さないように静かに崩さ取って遊ぶ。崩さないようにそっと抜いたり、抜きやすいところを探したりする。また友だちがとる様子を見るのをよよにじっと見守る。抜くときのドキドキ感や取れたときの嬉しさを友だちや保育者と共有して楽しむ。</p> <p>“うれし!”</p> <p>18日「ワンプレートから小皿にのこったことを“お姉さんのおさらだ!”と遊ぶ。お皿が変わり増えたことで、運んだり入れ替えたりすることも増えたが、それよりも“お姉さんみだい”と変わったことを喜んでる。お皿の皿へ方を絵を使いながら伝えたり、たべる様子を見守っていた。</p> <p>“これしたい!”</p> <p>19日「室内で遊んでいると“えのくすしたい”という。扉の前であったので、思いを受けとめつつ、こぼれで楽しいことを伝えると“じゃあまた明日しよう”という。“えのくすしようね”と保育者と話しをして思いをすり合わせる。</p>	<p>○友だちとのやりとりしたり、役になりきり、表現することを楽しむ。</p> <p>○友だちや保育者と目的やルールを共有して楽しむ。また、緊張感や喜びなどの思いを共有する。</p> <p>○絵具や泥などの感触を指いたり、触ったりして味わう。</p> <p>○“お姉さん”と大きくなったことを感じ、誇らしく語ったり、喜んでたりする。</p>	<p>・伝えること、書くことを楽しみ、伝え合うことのおもしろさ、おもしろさを感ぜられるようにする。</p> <p>・ルールを共有することで、より思いが共有できるように関わる。また物さやルールとの間で懸念する姿を見守り、寄り添っていく。</p> <p>・様々な感触に触れる機会や触れ方を指導していく。また、服が汚れると予想されるので、自分で考えられるように声をかけたり、保護者にも伝えていく。</p> <p>・喜びを共有し、自信や誇らしさを味わえるようにする。変わって戸惑うこともあるので、その程度伝えていく。</p>	<p>“これにしようか?”</p> <p>13日「あぶくだったをやる。お化け役の楽しさがわかると、その役をやる子も増え返しが分かれ始めた。言いたいことが話せるように「つぎ何にしようか」「次はこうする?」と保育者が話に入りながら、「かぜのおとにする?」と二人で話す。</p> <p>“こうしてみよう?”</p> <p>14日「えのくす遊びをする。筆で自分のイメージしたことを描くことを楽しむ。自分のイメージを描き終えたら、また新しい絵を描く。ペタ塗りをまだまだ楽しむ子もいるので、思い思いに描けるように紙や筆を用意した。思いきり描く子もいたので、大きな紙に描く機会も作っていききたい。</p> <p>“たのしい!”</p> <p>15日「落ち葉を上に投げて遊ぶ。友だちと掛け合ったり、ひらひらと舞う落ち葉をつかもうとしたり、友だちと声を出して笑い楽しむ。</p> <p>“いれてー!”</p> <p>15日「あぶくだったをやる。友だちがしているのを見ると、「いれてー」と集まってくる。友だちや保育者と一緒に、やりとりしたり、体を動かすことを楽しむ。</p> <p>“たのしい!”</p> <p>15日「白ボールの家の中に狭いがぎゅうぎゅうになって友だちと入る。狭いところが強ち替いたり、そこに友だちと入ることが楽しいようだ。</p>

本日のねらい・・・どろや絵具の感触遊びを楽しむ

(2) 実践を通して

- 子どもは、好きな遊びを楽しみ、遊びの終わりを自分で決めたり、遊びを通して友だちの思いに気付いたりしていた。保育者は、子どもの遊びからの発見や主張を認め、それを保育者間で共有し子どもへ発信し、友だち同士をつなげる役割を意識することを学ぶ。

5、幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 幼児期に育つ力の基は、乳児期に育つことから、保育者は、子どもの行動や表情、言葉から育ちを読み取り、育とうとしている力を支えるために、様々な仕掛けを取り入れていくことの大切さを学んだ。
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿をより意識し、それらの力の基が乳児期の育ちの何と関連しているのかを意識するきっかけとなった。
- 遊びを通して学ぶことを大切にする考え方は、小学校以上の学びの基礎になっているので今後も取り組み続けたい。

【課題】

- 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に対し、本園児が育ち切れていないところを分析し、乳児期から意識して関わっていききたい。
- 小学校以降の学びへの接続を意識し、乳幼児教育の質を高めていききたい。

社会福祉法人愛和福祉会吉原保育所

1 めざす保育所像



2 幼児数

平成30年1月9日現在

年齢	0歳児	1歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計
クラス名	ゆり組	もも組	ばら組	きく組	ふじ組	
幼児数	9名	22名	21名	31名	2名	85名

3 特色ある保育（教育）活動

【アタッチメント（愛着形成）を基盤にした保育】

子どもは容易に怖がり不安がり、身近な誰かにくっつきとし、くっついて安心感に浸ろうとすることをアタッチメントといいます。それが何回も繰り返され、確実に安心して経験できるかが、生涯に亘る心身の健康な発達のカギとなります。保育者と子どもとのアタッチメントを築くことを保育所生活の基盤として、保育に取り組んでいます。

【安全感の輪】



「みててね」「てつだってね」

「まもってね」「うけとめて」

参考：Cedep 副センター長 遠藤利彦氏



【育児担当制】

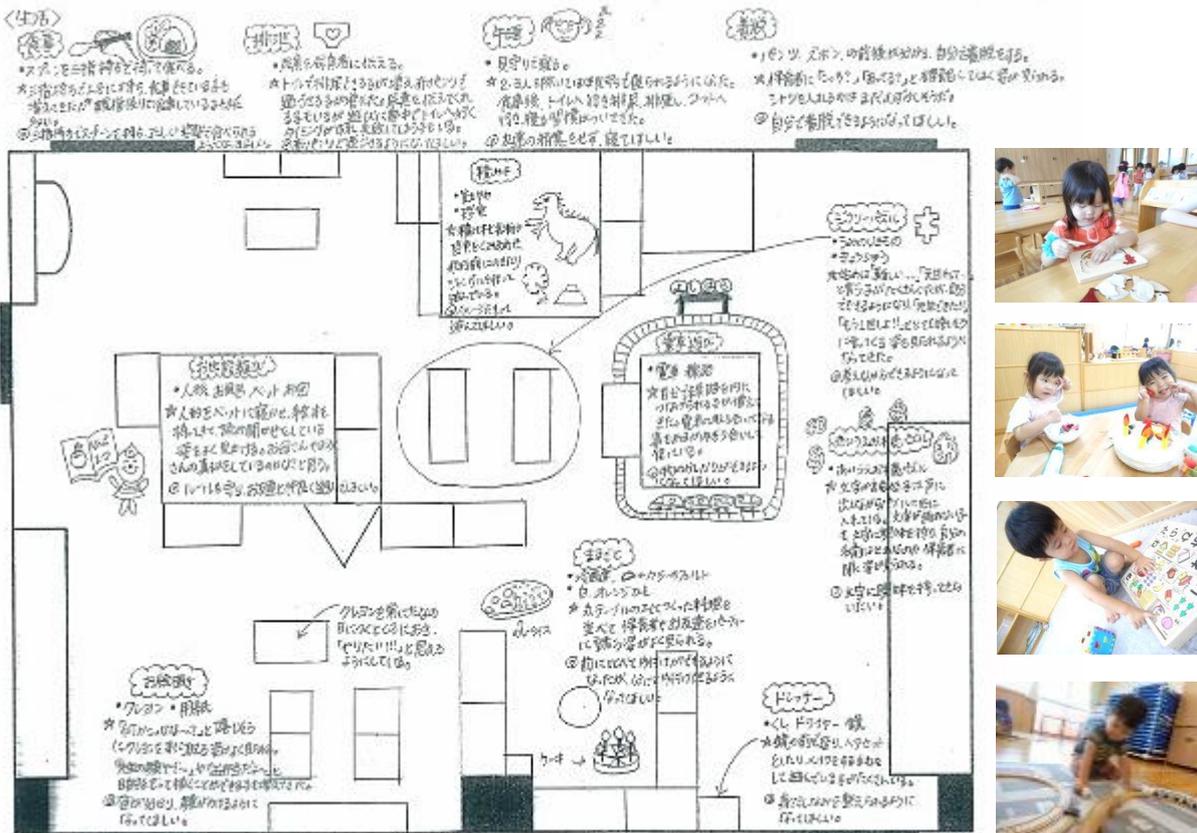
生活リズムや発達状況の違う子どもたち、特に乳児・未満児にかけては、家庭の生活時間に保育時間を連動させながら、特定の保育士（できる限り）が特定の子どもの育児（食事・排泄・睡眠など）を行います。



【遊びは教育】

指導教育ではなく、子どもたちの興味関心や発達に見合った遊びと教育的効果を結び付けていきます。環境を通して子どもたちが主体的に遊びながら、学びにつながるように保育を行います。

4 実践事例（きく・ふじ組（2・3歳児）の保育環境）



【保育環境の見直しを通して】

“遊びの質”に着目して、遊びの空間・おもちゃの種類と量を見直し、同時に支援のあり方についても園内研修を通じて共通理解を図ってきました。遊びの主体を子どもに置き、任せて（信頼して）いく中で、遊びに対する意欲が高まるとともに、遊びに広がり・深まり・繋がりといった変化が見られるようになってきました。

5 幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】市内幼児教育研修会を通じて、幼児教育を考える良い機会となりました。保育所・幼稚園・小学校の職員が幼児の成長や保育者の支援のあり方について話しあい、学び合うことは大変有意義だと考えます。

【課題】幼稚園教育要領、保育所保育指針について、今後、保育所が取り組むべき教育保育のあり方について教えていただきたいです。

社会福祉法人船入福祉会 南部保育所

1 南部保育所の保育内容

保育理念

子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの幸せのために保護者や地域と連携し養護のゆきとどいた環境のもとに一人ひとりの子どもの健やかな心と体を育み共に育ちあう保育をめざす。

保育方針 健やかな心と体を育み、共に育ちあう保育をめざす。



保育目標 健やかな心と、じょうぶなからだを育てる。

めざす子ども像



- ◎ 豊かな自然の中で好奇心、冒険心をふくらませ、友だちと思いっきり遊べる子ども。
- ◎ 遊ぶ、食べる、眠るのリズムが整った子ども。
- ◎ 豊かな心と感性を持ち、自分の思いをすなおに表現できる子ども。
- ◎ 人や物に対して思いやり、優しさ、感謝の気持ちを持つ子ども。

2 幼児数

平成 30 年 1 月 9 現在

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
クラス名	あか組	もも組	き組	あお組	みどり組	みどり組	
幼児数	8	24	22	15	2	1	72

3 特色ある保育活動

🌸遊びの様子🌸

(1 歳児)

運動遊び
「たくさんあそぼう
たのしくあそぼう」
～はしる・とぶ・なげる～
平成 27 年度から講師を招いての
取り組みを行っています。

(0 歳児)



(2 歳児)

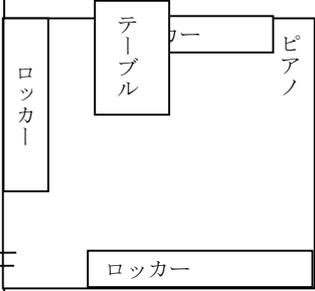
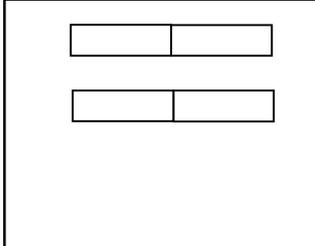


(3、4、5 歳児)



4 実践事例 (1) 日案

デイリープログラム 2歳児 黄組

平成 29 年 8 月 18 日(金)			
時間	環境構成	子どもの活動	保育者の援助と留意事項
7:00 ～ 8:30	黄組保育室 	○順次登所する。 ・保護者と一緒に持ち物を片づけする。 ・お便り帳にシールを貼る。 ・好きな玩具で友だちや保育者と遊ぶ。	・元気よく笑顔で挨拶をして受け入れをし、視診、問診を行い体調や機嫌を把握する。 ・遊びたいコーナーで自由に友だちや保育者と遊べるよう子どもたちの好きな玩具を準備しておく。 ・各コーナーに保育者がついて必要な援助、助言、友だちとの仲立ちをして遊びを見守る。 ・トイレに誘い順次排泄をすませる。また、パンツやズボンの着脱は自分でしたいという気持ちを大切に、必要に応じて援助する。
9:15	ロッカー ランチルーム 	○トイレに行く。 ・便座に座り、排泄をする。 新しい紙パンツや布パンツにする。	・石鹸できれいに手を洗えているか確認し、「きれいになったね」「気持ちがいいね」など言葉かけをする。 ・おやつを食べる前にテーブルや手を消毒し清潔に食べられるようにする。 ・牛乳やお茶で十分に水分を補給し、おやつを楽しむ。 ・おしぼりを配り、食べ終わったら、手や口の周りを拭くように言葉かけする。
9:45	・消毒液 ・机 ・おしぼり ・イス	○手洗いと消毒を済ませておやつを食べる。 ・「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする。 ○朝の会に参加する。 ・朝の歌を歌い挨拶をする。 ・名前を呼ばれて返事をする。 ・好きな歌を歌う。 ・紙芝居を見る。「おばけのスパゲッティ」 ・朝の体操をする。「エビカニックス」	・朝の歌や手あそびをして落ち着いた雰囲気の中で保育者の話を聞いて次の活動に期待を持たせる。 ・みんなが歌えるよう、歌詞が入った絵本を見せながら歌うようにする。
10:20		○おしぼりで顔や手をふく。 ○トイレに行く。 ・便座に座り、排泄をする。 ・帽子をかぶり、園庭に出る。	・保育者も一緒になって体操し、子どもたちと体操する楽しさを共感できるようにする。 ・朝の会が終わったら、次の活動の前に順次排泄をすませる。 ・園庭に出るため、帽子をかぶることを促し、日差しを直接浴びることがないようにする。
	次ページに記載		
11:00		○外から帰ったら手を洗う。 ○トイレに行く。 ○給食の準備をする。 ○給食を食べる。	・手洗いの様子を見ながら言葉かけをする。 ・トイレに誘い順次排泄をすませる。 ・子どもと会話をしながら和やかな雰囲気です食事ができるように配慮する。

(2) 保育指導案

- 日時 平成 29 年 8 月 18 日 (金) 黄組 2 歳児 22 名
- 題材 なにしてあそぼうかな?
- ねらい 保育者や友だちと一緒に夏ならではのあそびを楽しむ。

時刻	環境	予想される幼児の活動	保育者の援助と留意事項
10:20	<p>○芝生広場</p> <p>○日陰であそべるようテントやパラソルを用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机 2 個 ・シャボン玉液 ・ストロー ・うちわ ・モールなど ・花びら ・すり鉢 ・ペットボトル ・食紅 ・クレープ紙 ・透明なコップ ・水 ・タライ ・ポイ ・金魚・アヒル ・容器 	<p>○戸外で好きなコーナーあそびを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャボン玉あそびをする。 <p>いろいろな種類のシャボン玉玩具を使ってあそぶ。</p> <p>うちわやモールを使ってシャボン玉を作ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色水あそびをする。 <p>すり鉢で花を磨り潰す。</p> <p>ジュースやさんごっこをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金魚すくいをする。 <p>金魚やアヒルをポイですくう。</p> <p>○片付けをする。</p> <p>保育者や友だちと一緒に片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テントやパラソルを立て日陰の中でコーナーあそびを楽しめるように遊具を配置し、子どもたちが自由に遊べるよう環境を整えておく。 ・各コーナーの保育者が子どもたちの遊んでいる様子を見守ったり、把握したりして保育者間で連携を取り合う。 ・いろいろな種類のシャボン玉用の玩具を用意し、自分の好きな玩具を使ってあそべるようにしておく。 ・口をつけて吹く時は、誤ってシャボン玉液を飲んだりしないように側について見守ったり声をかけたりする。 ・吹く息の強さや、使う玩具の種類によって、出来るシャボン玉の大きさが違う事に気づかせる。 ・保育者がして見せ、自分もやってみたいという気持ちを持たせる。 ・色水を混ぜた時の色の変化に気づかせ興味を持って楽しめるようにする。 ・誤飲のないよう留意する。 ・遊びを通して子どもの気づきに共感し、子どもたちが自分の思いを友だちにも伝えられるよう保育者が仲立ちをする。 ・繰り返し金魚やアヒルをすくう楽しさやおもしろさを味わわせる。 ・近くにいる友だちとトラブルにならないよう広いスペースを確保する。 ・「楽しかったね。また、しようね。」などと声をかけ次回への期待が持てるようにする。
11:00			

できるかな



しゃぼんだま

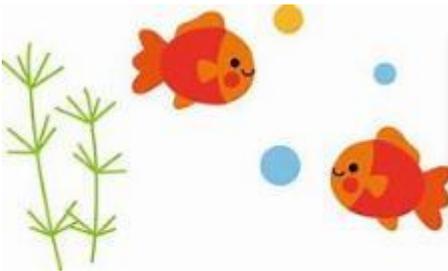
みよってよ



きんぎょすくい



にげないで



(3) 実践を通して

- ・ しゃぼんだまやきんぎょすくいは、興味を持ち喜んであそんでいた。色水あそびは今回、生花とクレープ紙を用意したがクレープ紙の色が鮮やかなことと生花をすり鉢ですり潰すことが難しいことでクレープ紙での色水あそびを喜んでいた。次回するときは、どちらか1つにすることと生花を使う場合はすり鉢ではなくビニール袋を使ってみたいと思った。

5 幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- ・ 今回指導案があったことで、保育内容やねらいを教育委員会やアドバイザーの方に理解していただく事ができたと思う。保育は、コーナー遊びにすることで遊び込めていたと言っていたが、保育者が手をかけすぎるところがあったので、これからは、保育者が見守る中で子どもたちの自主性を大切にしていきたいと思う。自分たちの保育を見直すよいきっかけになった。

【課題】

- ・ 指導、指摘いただいた内容を保育者間で共有しこれからの保育につなげていきたい。

のぞみ保育園

1 本園の保育・教育

【保育理念】

○愛敬の心を養い 豊かな個性を伸ばす ○子ども、保護者、地域に対して誠意真心を持って関わる

【保育目標】

「生きる喜びと生きる力を育む」

- ・健康でたくましい子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・自分で考え行動する子ども
- ・好奇心いっぱいやる気がある子ども
- ・感性豊かな子ども
- ・人とかかわりを楽しむ子ども

【保育方針】

- 児童福祉法に基づき乳幼児の健全な育成をめざす
- 養護のゆきとどいた環境のもとに保育の安全と情緒の安定を図る
- 規則正しい生活習慣を身につけ日常生活における基本的な態度を養う
- 困難に立ち向かう心や我慢できる心を身につける ○人に対する思いやりや信頼感を育て人権を大切にすることを養う
- 自然や社会の現象についての興味や関心を育て豊かな体験を通して感じたことを表現する感性と創造性を身につける
- ことばへの興味や関心を持ち豊かな情緒、思考力、表現力を身につける
- 保護者の子育てを支え子どもと子育てにやさしい地域をめざす

2 園児数

平成30年1月9日現在

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
クラス名	うめ	もも	さくら1	さくら2	すみれ	ひまわり	ばら	
幼児数	18	29	18	18	25	18	28	154

3 特色ある保育（教育）活動

☆0、1、2歳児の保育【一人一人にあわせた育児援助とあそび】

・ゆるやかな担当制をとり深くかかわることで情緒の安定を図ります。遊びでは、一人一人の成長発達に合った玩具や遊びの環境を整えることで、好奇心や物に向かう力、やる気の芽を育みます。

☆3、4、5歳児の保育【5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）に基づいた活動】

・様々な活動や遊びを通して仲間との関係を築き、コミュニケーション力や自己決定力を高めること、自分で考え責任を持って行動するなどの社会性を身につけるように保育環境を整えます。また、幼児期に発達に添って身につけておきたい基礎能力を獲得していく活動を年齢別にかきゅうを作成して実施します。

☆役割遊び・異年齢交流

・身近な同年齢の友達との関わりを深め協同して遊ぶとともに、異年齢児との「のぞみっこタイム」を通して、小さい友達がいたわる気持ちや思いやりの心とコミュニケーション力を育みます。



☆食育活動

・元気な土づくりから「元気野菜」を収穫するまでの体験を通して、自然の仕組みへの関心を育てます。また、「元気野菜」を使って調理する楽しさや食べる喜びを共有することで、食に対する興味や関心を広げます。

☆保護者支援活動【なかよし広場・エンジェルコンサート】

・家庭で子育てをしている親子に楽しいひと時を過ごして頂きます。また、子育て中の保護者同士が育児について情報交換をし、子育てに関する悩み解消の糸口になる場を設けています。

☆香川短期大学教官・外部講師による指導

◎音楽リズム ◎造形・絵画 ◎鼓隊・合奏指導 ◎運動あそび ◎サイエンス ◎サッカー ◎英語で遊ぼう



☆クルトンさんの七夕祭り☆

目につくやまの
見真横の上に飾ってみよう!

絵本「クルトンさんとつきのパン」のお話を聞いてストーリーの面白さを感じ、興味を持った子ども達から「テーマにしたい」と意見が出た。絵本の中から何を作ろうかと話し合うと「お月様」「星」「パン」「かまど」などが出たので、子ども達に任せてみると次の日から今回のテーマ遊びが始まった。



○かまどを作ろう



絵本に描いていこうな!

僕が設計!
パンを焼くための
お月様もいるから
みんなに分かるよ
うに描いたよ!

パンを焼くかまど作り開始。積み木を積み始めるが大きさをどうするか困っていたので、積み木の間に板を入れる板をどれにするか投げかけて見ると友達と床に並べ話し合っていた。板が決まると積み木を丁寧に積み重ねて安定感を待たせ、間に板を挟み、カプラーで曲線を描きながら積んでいった。

○お月様を作ろう



こっちは
まかせて!

自分達で場所割をしてお月様を描いた。絵の具が乾くと初めての段ボールカッターに挑戦! 友達に支えてもらいながら協力して順番に切っていた。

○星を作ろう



ええよ!
見よってよ

折り方
教えて~

自分で作りたいものを決め、折り紙の本を見ながら友達と一緒に折り進めていった。



ここ間あいとるや
ろ? 間のないよう
にしてみよう!

そ〜とと置くよ!
せ〜の!



この辺に
したらどう?

月って動いて
いるの知ってる?

お月様ぶら下げのけん、もう
ちょっと上の方がええと思う!

図鑑を見て東西南北やお月様が東から西に動いていることを知った。そこから「どっちが西でどっちが東なん?」と言う言葉が聞かれたので、保育室内で東を知らせると西の方角に気付いた。そこから「じゃあ南はどっちやろ?」と言うと、夏祭り観覧車の時に南からの火災を思い出し、すぐ南に気付いた。また、「お月様を動かすようにしたい」と言う意見が出たので、紐を通すことを提案すると、製材の中からラップの芯を選んだ。写真はラップの芯をお月様の裏に貼り付けようとしている。どこの位置に付けたらいいか話し合いが始まった。

なあなあ、先生、
このお月様、口あるけど
食べた物が落ちてしまう



ここ
お月様先生!

さあ、どうせも?

東西南北を知ったことから・・・

保育室内にはみんなが分かるように東西南北の位置を書いて掲示することに!

○かまどで焼くものを作ろう

パンの他には
何が焼けるかな?



私の名前前の“な”
と“み”がある!

星をつけるとお月様!

○星座を作ろう

白鳥座!

何座作りよん?

○流しそうめんをしよう

どうやって流すの?



「水で流す!」と言う案が出るが、水は使えないので「砂場だと水を使えるのにね」と言葉をかけると砂場へ流しそうめん台になりそうな物を探しに行った。そこで、といをみつけると昨年の年長児が水を流して遊んでいたことを思い出し、流し台を作り試してみる事になった。



この星は
どこかな?

星の図鑑を見ていた子が空には月だけでなく星もあることに気付き「こと座って書いてあるよ!」と南の空にある星座を作る事になった。

○天の川を作ろう

七夕飾りを作っていた時、「先生、これと天の川一緒や!」と言った。大きい天の川を作る事になった。



おはじきを並りに
するが流れない。
おはじきの数を
増やすが流れない。
↓(でもテープの芯は転がる)
形に注目して素材選びをする



天の川は「星の川」と
いうことで星を飾る
事にしました。



持っとくな!

大きいのを
作るって難しい!



連続スレイ!

《ねらい》 今日の保育【平成29年7月7日】

- ◎好きな遊びを選び、友達や異年齢児と関わる中で自分の思いや考えを伝える。
- ◎友達と一緒に様々な素材を使って作ったり、試したりすることを楽しむ。
- ◎夜空の星や月に興味を持ち、調べたり遊びに取り入れたりする。

- 子どもの活動
- 保育者の関わり
- ☆環境



ロッカー

出入口

そうめん流しコーナー

- そうめんを流す量や流し方、といの角度等を調節しながら友達と遊びを進める。
- お店役は、そうめんの流し方を言葉で伝えたり、実際にしてみせる。
- お箸やフォークを使ってそうめんを取ることを繰り返し楽しむ。
- 子ども達が悩んでいる時や友達と話し合っている時は気持ちに寄り添ったり、見守ったりする。
- 子ども達から出たアイデアを取り入れていき、必要な材料を用意したり一緒に探したり等、イメージを形にしていく楽しさが味わえるような言葉かけや関わりをする。
- 必要に応じて遊びのヒントやきっかけとなるような言葉かけをし、遊びを広げる協力をしていく。

全体の流れ

- 様々なお店屋さんの役になりきり、お客さんとのやりとりを楽しむ。
- 小さいクラスの友達をお客さんとして招待し、コーナーの案内をする。
- 小さいクラスの友達に対して遊び方を伝えたり一緒に遊んだりする。
- 友達と役交代をしながら遊びを進める。
- 子どもから出たイメージを表現できるような素材や道具と一緒に探したり、提案したりすることで遊びを広げるような援助を心掛ける。
- 異年齢児との自然な関わり合いを大切にし、接し方を伝えたり、優しく関わる姿を見守っていく。
- 保育室移動する時は室内を通して移動するように子ども達に知らせると共に保育者間の連携をとる。

出入口

食事コーナー

- ピザやドーナツを持って来て友達と一緒に楽しく過ごす。
- 食べ終わった物をお店に持って行く。
- 友達とイメージを共有しながら楽しく過ごせるような場の雰囲気を作っていく。



かまどコーナー [ピザ・ドーナツ]



- 小麦粉粘土の柔らかい感触や型が変わる面白さを感じながら作る。
- ピザ作りで経験したことを友だち同士で話し合ったり、お客さんに作り方を知らせたりする。
- 自分の好きな具材を選び、オリジナルのピザ作りを楽しむ。
- かまどでピザやドーナツを焼く。
- 子ども達の経験が遊びにつながるように活動を思い出せるような言葉かけをする。
- 必要に応じて保育者がお客役になり、遊びが発展していくようなきっかけ作りをする。
- ☆小麦粉粘土を使用した後は、手を拭けるようにおしぼりを用意する。

お道具箱	図鑑・折り紙
	棚
製作棚	棚

お月様・星コーナー

- 壁の星座を見て疑問に思ったことを図鑑で調べる。
- 色々な星座に興味を持ち、図鑑を見ながら作る。
- 夏の星座について調べたことをお客さんに紹介する。
- 子どもの気づきや興味に合わせて作ったり、調べたりすることができるように環境を整える。



玩具棚
玩具棚

多目的 絵本

構成棚 構成棚

《評価の視点》

- ◎好きな遊びを選び、友達や異年齢児と関わる中で自分の思いや考えを伝えたか。
- ◎友達と一緒に様々な素材を使って作ったり、試したりすることを楽しめたか。
- ◎夜空の星や月に興味を持ち、調べたり遊びに取り入れたりしていたか。

【善通寺市 訪問の視点】

『一人一人の良さや可能性を伸ばす子どもの主体的な活動の充実』

○：継続してほしい点

▲：改善してほしい点

◎：今後さらに大切にしてほしい点

☆：その他

1 子どもたちの姿（育ち）について

○ 多くの所・園で、思いっきり身体を動かして遊んだり、自分の作りたいものをじっくりと作ったり、友達とかかわって遊んだりする様子がみられた。子ども一人一人の表情がにこやかに普段からのびのびと園生活を過ごしているのだろうと思った。



○ 素材のおもしろさを楽しんでいたりと、子どもたちがいろいろと工夫して遊ぼうとしていたりする姿が素晴らしい。

○ 目的がクラス全体で共有されており、様々な意見を出し合ったり、試したり、工夫したりしながら互いを認め合っている様子がいたるところでみられた。これまでの生活の中で、担任や友達との信頼関係ができていると感じた。

○ どのクラスも、その年齢ならではの姿を見せて、伸び伸びと遊びこんでいる。発達段階で経験しておきたい事柄も、十分に経験できている。

◎ 子どもたちは、非常に明瞭なことばで自分が作ったものについて語り、自分がな りきっているものについて語っていた。このような自分が伝えたいことを自分のことばで語り、それを真剣に聞いてもらえるという遊びの中での経験こそが、子どものことばや言語環境を育てていくものと思われる。

◎ 子ども同士のトラブルは、あって当たり前であり、それも経験である。上手に周りの子どもとの関係を築くことで、解決を図っていきたい。

2 保育者の様子について

○ 保育者の表情が穏やかなので、子どもが安心して生活したり遊んだりすることができている。各保育士の声が静かで穏やかなことが、クラス全体を落ち着かせ、子どもたちも穏やかに喋ったり歌ったりすることを可能にしている。

○ 保育者が子どもたちと一緒に遊びを楽しんでいる姿がみられた。保育者の表情がよく、子どもたちと園や所での生活を楽しもうとしている姿がみられた。



○ 保育者に「待つ」「見守る」姿勢があると、自分たちでルールや遊びを創り出すことができています。

○ 子どもの遊びの様子に応じた助言をしたり、一人一人の遊びの終わりに寄り添ったりしている姿があった。このような経験を積み重ねることで、信頼関係ができる。そして、安心して自ら遊びにかかわる子どもを育てる。

○ 日常的に保育を語り合う保育者集団があることが、子どもたちの発達に応じた生活や遊びを創り出している。

▲ 子どもの行動を促すときに、手や腕をつかんで引っ張る光景が何度か見られた。子どもが自らの意思で動けるようになるためには避けてほしい。

◎ 保育者には、子どもと一緒に遊ぶことで、遊びの理解者、共同作業者、憧れを形成するモデル、遊びの援助者等としての役割がある。つまり、遊びを見守るだけでなく、友達同士のかかわりが進められるように援助していくことも必要である。友達とのやりとりのモデルをするのは、保育者の役割である。

☆ どのクラスも、子ども主体の保育が行われている所・園に共通していることは、保育や子どもの成長をともに楽しもうとしている所長・園長がいることと、異年齢交流などによる保育者同士が保育を見たり、話し合ったりできる関係性があることだと感じた。このことが、所・園全体の保育の質を向上させている。

3 保育の内容について

(1) 保育内容及び指導過程について

- 子どもの興味関心をよくとらえることができている、人数や遊びの内容によって遊びが持続できるような空間や動線の工夫ができていた。昨年度に比べて、遊びがダイナミックになっているところが多かった。
- タイミングのよい適切な声かけや、保育をしながら子どもを観察することもできている。子どもの好奇心をくすぐるような場面もたくさんあった。大きな声ではないが、きちんと指導ができており、子どもの思いを大切にされた保育ができています。



- ▲ 保育者が考えたように子どもが遊ぶことをめざすのではなく、子どもが何をしたいのかを考えることを保育の出発点にしてほしい。

- ▲ 前日からの遊びの続きをする場合、活動に入る前にどこをさらに取り組みたいか、どこに苦労しているか、最終的にどんな仕上がりをめざしているかなどを考えたり話したりする機会があれば、一過性の見立てから、イメージの発展、素材への研究などが進むと思われる。また、そのプロセスで、友達がつくりつつある物にアドバイスしたり協力したり…といった子ども間のかかわりも成長する。
- ▲ 今日の遊びで楽しかったことを話しているが、「〇〇がおもしろかった」にとどまっている。保育者自身の今日の遊びから、全体に紹介したい内容や気づきを話し、その遊びについて子どもたちに話をしてもらうことで、その遊びを知らない子どもへの興味関心につなげ、明日の遊びへのヒントになるような振り返りも取り入れてほしい。
- ◎ 子どもたちがグループで遊んでいるとき、他のグループの子に遊びを紹介する時間をつくるとよい。さらに刺激を受けて、遊びが広がる。また、各グループとしての感想や困ったことなどを、みんなで共有することで、遊びを充実させるヒントに気付く機会となる。

- ◎ 子どもに任せる場、一緒に考える場をつくることで、遊びの広がりや深まりができ、主体的な活動が展開される。
- ◎ 複数の保育者で保育する場合は、遊びの援助のポイントを具体的に共有しておく必要がある。子どもの気付きや探究心をくすぐるかかわりを共有し、一つ一つの遊びの展開や一人一人の遊びに関する取組を把握することに努めたり、子どもがどのような姿を望んでいるのかを明確にしたりしてタイミングのよい援助をすることに努めてほしい。
- ◎ 「時間がきたので終わる」という終わり方ではなく、終了の見通しをもつ機会を提供できれば、さらに子どもの納得と満足が高まる。

(2) 環境構成について

- 自然物を使った環境が多く、季節感を感じた。
- 廊下に子どもたちの写真や季節の飾りがあり、温かみを感じた。
- ▲ 活動への意欲を生かすために、素材をさらに研究することが可能ではないか。
- ▲ 安全面に留意した運動遊具の配置や設置を考える必要がある。
- ◎ 遊びの途中の作品を置いておくスペースがあるなど、遊びの流れや動きのある生活を子どもたちとともに創り出すことも必要である。一人一人の興味関心に応じ、自発的な遊びができるような環境構成を「時間的・空間・仲間」の三つの「間」の視点で見直すことで、自然発生した異年齢保育の在り方も探してほしい。
- ◎ 子どもは遊びを通して学んでいく。発達に応じた遊びの提供（環境づくり）が必要である。子どもたちが興味関心をもって遊びこめる、魅力のある環境づくりや教材研究を進めてほしい。



(3) 特別な支援を要する子どもへの指導について

▲ 特別支援教育支援員（以下、支援員）との共通理解や役割分担を進めるとよい。支援員に任せるのではなく、園全体で考えて支援していくことが望ましい。

◎ 「ねらい」のもち方によって、支援の仕方が変わってくる。個人差が大きい学級においても、段階をおって遊びを通してルールを学ばせていく。個人差に応じた支援を繰り返して行うことが大事である。



◎ 特別な支援が必要な子どもに対して、保育者や支援員が本児の困り感を見つけ、何が必要かを探り、並走者としての役割を行うことや、本児をプラスの視点で把握し、周りの子とつなげることやかかわり方を教えていくことも必要である。

◎ 静かにして受動的な子どもにこそ、目を向けることが大切である。

4 保育指導案について

▲ 「ねらい」をもっと具体的に表記するとよい。活動の手順を書くことから一歩進んで、活動中の子どもの姿を細かく予想し、それに対する保育者の関わりを記すものにするとうよい。

▲ 保育指導案には、「本時の遊びに関する子どもの姿」と「これまで大切にしてきたこと」を整理して記入する必要がある。また、複数での保育の場合は、特別な支援を要する子どもへのかかわり等を具体的に記入する方が、より連携した適切な支援につながる。

◎ 指導案は作成するが、子どもたちの興味や関心に合わせて保育していく方がよい。「指導案の通りにしなくてはいけない。」と思うと急いでしまう。子どもたちが遊びこむ姿を大切に、指導案にとらわれ過ぎないことが大切である。

◎ 「ねらい」を具体化することにより、複数担任で保育内容や経験させたい内容の共通理解、援助の在り方を共有することができる。また、「ねらい」を五領域に結び付けて設定すれば、振り返るときも、それが達成されたかどうかを省察するガイドができ、省察が一層深まるものと思われる。さらに、活動途中で展開を試みる際の基準になるかもしれない。

5 幼稚園教育要領、保育所保育指針との関連について

- ◎ 幼児期に、自分が選択し判断して心ゆくまで試したり挑戦したり工夫したりして遊びこむこと、友達と一緒に相談や協力することでより遊びが楽しくなる経験を積み重ねることは、今後の人間形成の基礎の部分をしっかりと根付かせることになる。
- ◎ 幼稚園教育要領や保育所保育指針の改訂もあるこの時期に、幼児教育が、認知能力・非認知能力への考え（学び）や人間形成の基礎となる根っこの部分を担っていることを再確認できるような市内研修や園内研修が充実するとよい。
- ◎ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は、5歳児の到達目標ではないが、育ちの方向性を示しているものなので、これらの力が身に付いているかを見直していく。自発的な遊びを創り出すには、各年齢で大切にしたい経験や体験の積み重ねが必要であり、所・園全体で子どもの遊びこむ姿から経験してほしい内容をつないで考えていくことが大切である。

6 保護者との連携について

- ◎ いい保育ができているので、写真等を撮っておいて保護者に広げるとよい。そうすることで、家庭でも遊びが続いたり、保護者が一緒に材料などを考えてくれたりするようになる。



- ◎ 保護者との連携は、遊びの紹介だけでなく、遊びを通して育っている内容をお便り等で伝える必要がある。例えば、月目標（約束）を掲示し、保護者とともに子どもの育ちを支えていけるようにすることも効果的である。

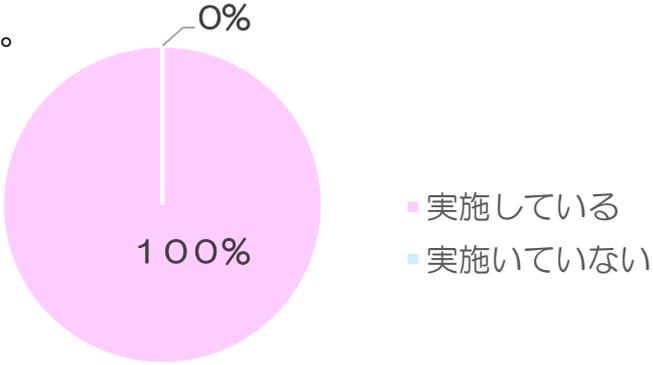
7 保育所（園）・幼稚園間の連携、園内研修の充実について

- ◎ 保育所から幼稚園、保育所（園）・幼稚園から小学校に、円滑につなぐ保育内容の振り返りをするとよい。保幼小の連携はとても大切である。
- ◎ 他所・園の保育参観を通して、保育について一緒に考える機会を設けてみてはどうだろうか。他園との情報交換の機会により、保育者の支援の幅が広がることが期待できるような研修も必要である。また、園内研修の在り方などを学び合う機会が複数あればよいと感じた。

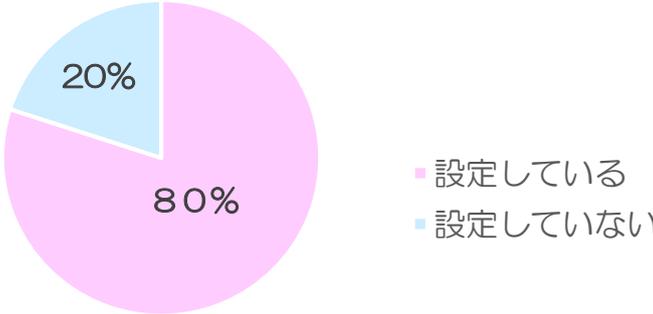
園内研修の実態調査から

市内保育所（園）・幼稚園における園内研修の実態調査（平成29年10月実施）
 【調査対象】 保育所（園）6施設、幼稚園9施設 全15施設

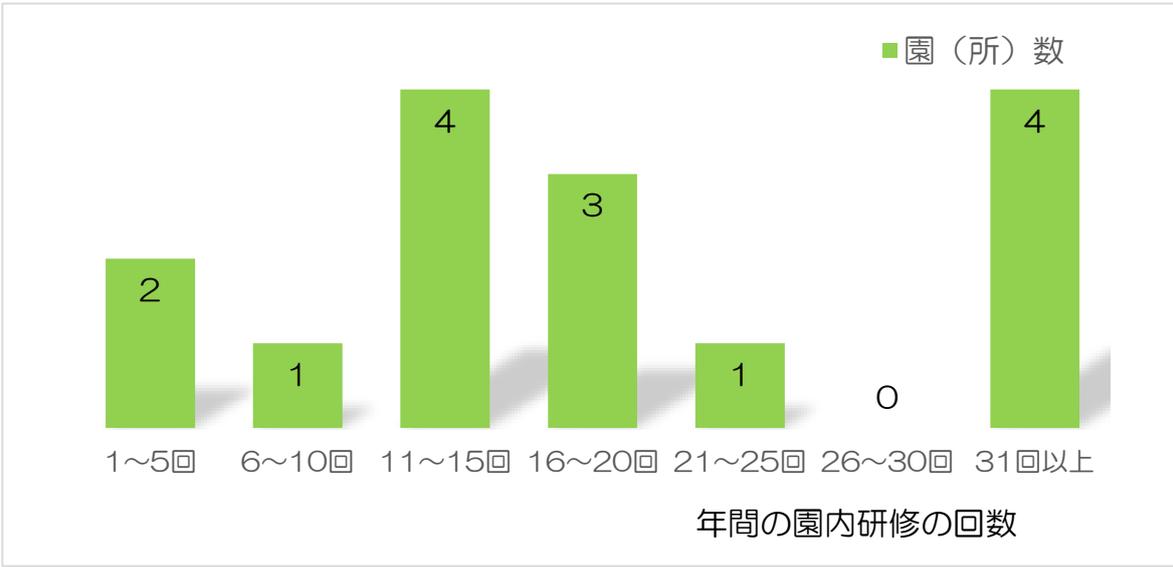
1 園内研修を行っていますか。



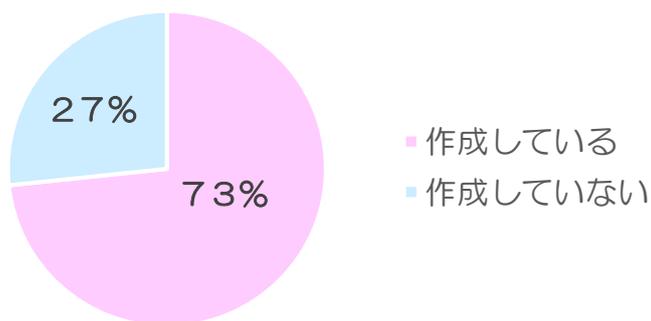
2 園内研修のテーマを設定していますか。



3 園内研修を年間何回実施していますか。



4 園内研修の年間計画等を作成していますか。



5 どのような園内研修を実施していますか。（複数回答可）

園内研修の内容	実施している所・園数
○遊びの環境構成について話し合い、実践する。	14
○研修を受けた保育者が研修報告をする。	14
○保育を参観し、気が付いたことなどを話し合う。	13
○具体的な事例を取り上げ、子ども理解を深める。	13
○行事等のもち方を協議する。	13
○保護者や地域との連携のもち方について話し合う。	12
○外部から指導者を招いて指導・助言をいただく。（本事業を除く。）	6
○継続できる保育等記録の取り方を協議し、実践する。	3
○専門書や参考となる資料などを使って話し合いをする。	1
○「善通寺市教育施策の大綱」「香川県幼児教育振興プラン」などを輪読する。	1
○指導要録の書き方について研修する。	1

<考察>

- ・ 市内の全保育所（園）・幼稚園で園内研修が実施されている。
- ・ どの所・園においても、所長・園長のリーダーシップのもと、それぞれの所・園の実態に応じて内容を工夫し、研修が進められている。
- ・ 本実態調査により、テーマ設定、研修計画の策定、回数などは所・園によって違うことが分かった。実態調査への協力に感謝するとともに、本実態調査の結果を、各所・園における次年度構想に活用していただきたい。

善通寺市幼児教育研修会から



【平成29年度 善通寺市幼児教育研修会】

平成30年度から実施される幼稚園教育要領及び保育所保育指針への理解を深めたり、子ども理解や保育者の役割を協議したりすることを通して、保育者や小学校教員の資質能力の向上、保・幼・小の連携の促進を図ることを目的とし、善通寺市幼児教育研修会を開催した。

《研修会の日程等》

- 1 日時 平成29年12月26日（火） 13:20～16:00
- 2 場所 旧善通寺偕行社
- 3 指導者 県幼児教育スーパーバイザー 市幼児教育アドバイザー
香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事
- 4 参加者 市内保育所（園）・幼稚園の保育者等、市内小学校低学年の担任等
- 5 研修内容
 - (1) 「幼児教育ミドルリーダー養成研修」（香川県教育委員会主催）受講者
幼稚園教諭2名による研修報告
 - (2) 「リョウガくんの保育記録」を通して
『3年間の保育記録』（岩波映像株式会社）を活用し、
3歳児後半編、4歳児編DVD視聴グループ協議

1 「幼児教育ミドルリーダー養成研修」受講者による研修報告から

(1) ミドルリーダーとは

ミドルリーダーには、所・園の中心的存在として、園内研修を進めていく役割がある。また、若年保育者のお手本となり、育てていく立場でもある。

そのために、常に笑顔で生き生きと保育を楽しみ、誰からも親しまれる保育者をめざしていく必要がある。

(2) 園内研修を充実させるために

① 園内研修とは

保育指導案を作成し、研究保育を行い、職員で討議することだけが園内研修ではない。子どもたちの育ちを見取ったり、研修会で学んだことについて話し合ったりすることも園内研修である。園内研修を行うことにより、保育者全員で子どもの育ちや課題などを共有し、支援を考えることができる。各所・園において、RPDCA サイクル（リサーチ→プラン→実行→評価→改善→…）で研修計画を立案することが望ましい。

② 園内研修の方法について

『園内研修の手引き』（香川県教育委員会）を参考に、「環境図を使った環境構成の共有を図る事例」、「カンファレンスシートを活用して保育について話し合う事例」を、『秋田喜代美の写真で語る保育の環境づくり』（ひかりのくに株式会社）の本からは、「写真を使って園内研修を進める事例」を紹介した。

2名の発表者から、それぞれの園で取り組んだ園内研修の事例についても紹介があった。自所・園の実態に合った研修を行うことで継続していくことができる。

③ 園内研修を進めるときに大切にしたいこと

保育者同士が、普段から何でも話し合える人間関係をつくっておくことが大切である。互いの意思を尊重し合い、風通しの良い雰囲気をつくっておくことが園内研修においても、多角的・多面的な角度から情報が得るためのポイントである。



【子どもの思いをつないで劇づくり】

(3) 子どもの主体性を大切にする保育について

数名の保育者にも協力をいただき、子どもの思いを大切にした「劇づくり」の方法が紹介された。

(4) 研修を振り返って

テーマをもって園内研修を行い、全保育者で話し合いの時間をもつことで、子ども理解を深めたり、環境を見直したりすることができた。

保育記録と幼稚園教育要領とを照らし合わせることの大切さも学んだ。ねらいや環境や援助の工夫を意識し、明日の保育につながるような振り返りを行っていきたい。

<参加者の感想>

- 短時間でも、職員間での話し合いを大切にしたい。
- 職員間で共通理解したり、相談し合ったりして保育をしていくことが大切だと思った。
- 具体的な園内研修の方法が分かり、何でも話し合える雰囲気づくりの大切さに気付いた。
- 付箋を使って個人記録を取るの、負担にならず継続していけそうなので取り入れたい。
- 子どもたちが台本を作っていく「劇づくり」が楽しそうだと思った。

2 「リョウガくんの保育記録」を通して

(1) 3歳児後半編を視聴して

- 3歳児にみられる“反抗”は、子どもの自我の芽生えであり、子どもなりの自己発揮ができるようになったということである。保育者には、このような子どもの姿（育ち）を大切に受け止め、方向づけをする重要な役割がある。
- 子どもたちは、保育者とともに生活する中で、自分を守ってくれ、心の動きに応じてくれる存在を知る。そして、自己発揮し自分の生活をつくり出していくことができる。だから、保育者は、子ども一人一人の良さや可能性を見だし、その子らしさをそこなわずにありのままに受け入れることが大切である。
- 子どもの行動を通して、何に心を動かしているのか、その子にとって意味を感じとり、今、大切にすべきことは何かなどについて、できるだけ子どもの立場に立って捉える必要がある。そのことによって、子どもの自己発揮を支える手立てがみえてくる。

(参考文献：『3年間の保育記録』解説書)

(2) 4歳児編を視聴して

- 4歳児は、乳幼児期から幼児期に移行する時期である。その発達の特徴は、自己中心性から自己の芽生えの時期にさしかかり、不安と自信を行ったり来たりしている。



- 今まで通り自己中心的でわがままな自分でよいのか、それとも周りに存在する友達や先生の言うことなどを聞く素直な自分がよいのか、無意識に心の中で葛藤している。こうした葛藤を「発達の壁」と呼んでいる。4歳を迎える時期にはどの子にも起こる現象で、子どもの成長や発達には必要不可欠な「壁」である。

- 「発達の壁」を子ども自身で乗り越えることが大切であるが、そのためには保育者の援助が絶対不可欠である。

(参考文献：『3年間の保育記録』解説書)

<参加者の感想>

- 保育者が子どもの遊びにかかわりすぎて、子どもの遊びを止めてしまうことがあるが、「待つ」ことの大切さを感じた。心の余裕をもって保育していきたい。
- 子ども理解をすることが大切だと思った。子どもをしっかりみて、かかわり方を考えた。
- 子どもの気持ちに寄り添い、思いに気付いて援助をすることの大切さを改めて感じた。



【DVD視聴後の協議の様子】

- 子どもが、自分から一歩踏み出せるように見守ったり、環境を整えたりすることの大切さを再確認した。子どもをよく見て、タイミングよく援助をしたい。
- 3～4歳の成長過程を見ることにより、その年齢に合わせた援助が必要だと思った。
- 自分の保育を見つめ直し、3学期から子どもたちにかかわっていきたい。

3 研修会を終えて

<参加者の感想>

- ① 指導者からの指導や助言を受けて
 - ・ 子どもの思いを受け止め、どのように支えていくかを改めて考える機会になった。
 - ・ 「子どもの思い」と「保育者の思い」のずれがないように、子ども理解を深めて保育をすることに努めたい。
 - ・ 遊びの中で、保育者がその子に合った目標を設定し、子どもの育ちをしっかりとみて保育をすることが大切だと思った。



【指導者から保育者へのメッセージ】

- ② 他の保育所（園）・幼稚園・小学校の先生方との話し合いや情報交換に関して



【異校種間での情報交換の様子】

- ・ 異校種の先生の様々な意見を聞くことができ、参考になった。
- ・ 異校種での子どもたちの姿を聞くことができた。子どもの育ちは、保育所（園）、幼稚園、小学校とつながっているのに、互いに知らないことがたくさんあると感じた。

4 今後、研修会で取り上げてほしい内容

- ☆ 今後も異校種間での話し合いや情報交換の場があると嬉しい。
- ☆ 保・幼・小理解（連携の在り方）の研修がしたい。
- ☆ 特別な支援を要する子ども（発達障害児等）への支援の仕方を研修したい。
- ☆ 遊びや保育教材、具体的な指導方法を学びたい。
- ☆ 家庭が園に望んでいること（保護者支援の仕方）を研修したい。
- ☆ 写真などを持ち寄って、環境構成についての情報交換がしたい。
- ☆ 園内研修を充実させるための研修がしたい。
- ☆ 経験年数に合わせた研修をしてほしい。
- ☆ 保育所保育指針や幼稚園教育要領についての研修がしたい。

2年次の取組を振り返って

香川県幼児教育スーパーバイザー 永田 洋子

善通寺市内の保育所（園）・幼稚園に訪問させていただき2年目になりました。何度も訪問させていただくことで、訪問の視点「一人一人の良さや可能性を伸ばす子どもの主体的な活動の充実」に向け、子どもの生き生きとした遊び込む姿が見られることが多くなりました。それとともに、笑顔の保育者が子どもたちとともに遊ぶ姿も増えてきています。子どもにとっての遊びとは？環境を通してとは？について協議できるようになっています。また、近隣の保育所・幼稚園間の相互参観や協議に参加することも多くなり、それぞれの文化の違いも認め合い子どもの主体的な保育に向けた協議ができつつあります。

12月に行われた「善通寺市幼児教育研修会」では、保育所・幼稚園・小学校の先生方がDVD「リョウガくんの保育記録を通して」視聴をとおして積極的な意見交換がなされ、幼児期の子ども理解や遊びの学びについて意見交換ができたことが、これからの乳幼児教育に向けた推進体制の構築の道筋が見えたと思います。

また、幼児教育ミドルリーダー育成研修の報告では、研修報告だけでなく自園の園内研修の取組も含めた報告があり、県内の市町では、保育所幼稚園別々の報告会や報告できにくい環境のところもある中で、本市は保育所・幼稚園・小学校の先生方が集まっての報告ができたことを非常に喜ばしいことであると思います。

乳幼児期は、生涯にわたる生きる力の基礎が培われるかけがえのない時期であり、保育所や幼稚園において、子どもたち一人一人が豊かな感性や表現力、社会性などを育み、自らの手ごたえの中で自らの基礎をふみかためていくことができる環境構成や保育者のかかわりが大切です。

保育者の同僚性を高めることを通して保育者の専門性を高め、さらには、専門性を高めることを通して同僚性を高めることになり往還を生み出すことにつながります。

平成30年度から「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が全面実施されます。その特徴的なことは、3歳児以上の保育を共通化したことです。乳児からの学びの芽生えとして始まり幼児期の教育の独自性を確立しそのうえで、幼児期の学びを小学校以降への教育へとつなぐことが求められます。この時期に、再度「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」から始まり、常につなげていけるような研修の在り方を提案したいと思っています。

これからは、自分たちのやりたい研修（やらされる研修ではなく）を自ら発信し、ともに学び合い保育の質の向上に向け、保育者自身がいきいきと子どもに関わることができる保育者集団のあり方が、ますます重要になると思います。

この2年間の乳幼児教育の歩みが確実に保育者一人一人の質の向上に向けたものであり、教育長さんをはじめ教育委員さんや指導主事さん方の乳幼児教育への熱意に、乳幼児教育に関わるひとりとして感謝申し上げます。

香川県幼児教育スーパーバイザー 森 あい子

今年度より香川県幼児教育スーパーバイザーとして、善通寺市内の全ての幼稚園・保育所（園）を訪問させていただいております。他市の公立幼稚園での勤務は長かったのですが、訪問する機会が少なかった私立幼稚園や保育所（園）の保育も参観させていただき、新鮮な驚きや発見が多く、心から感謝を申し上げます。

県下において、近隣の公立間の幼保小では相互参観や交流活動等の連携が、徐々に進められてきましたが、私立の幼稚園や保育所（園）との連携は、遅々として進んでいないのが現状と思われます。このような中、善通寺市では、公立・私立、幼稚園・保育所（園）にかかわらず、市全体の幼児教育の質の向上を目指し、推進体制の構築を図るという事業は、私にとって画期的で、大いに心惹かれるものでした。実際、保育所（園）での未満児の保育を参観させていただき、一人一人の生活リズムを大切にされた保育や、発達に応じたきめ細やかな環境構成や援助について等、具体的に学ぶ機会になりました。特に、昼食時間、クラス一斉に進めるのが当たり前になっていた私には、順次、食事に移行していく方法は、驚きと共に、園生活をもっと柔軟に考えられることに気付かせてもらう機会にもなりました。

この事業も2年目を迎え、訪問を重ねるにつれ、訪問の視点「一人一人の良さや可能性を伸ばす子ども主体的な活動の充実」に向け、保育が変容していることを感じます。保育者の表情や言葉かけの温かさが、子どもたちの主体的な活動を引き出し、のびのびと遊ぶ様子を笑顔で楽しんでいる保育者の姿が印象に残りました。保育者自身が「見たり聞いたりして、気付くこと」が、資質向上に向け大きな原動力になると考えます。各園（所）が、実態に応じて工夫している保育や取組みについて、相互参観したり情報交換や協議を深めたりすることが、保育の質の向上につながっていく確かな方法であると思います。

また、園（所）内研修による保育者間の相互参観や意見交換が基となり、保育観や幼児観の共通理解や子どもたちの情報の共有が図られ、保育の充実につながっていることも、訪問を通して実感しています。勤務体制の多様化等により、研修時間の確保が厳しい状況はありますが、各園（所）の実態に応じて時間や方法を工夫することで、必要感のある研修に向け、できることから取組んでみてはいかがでしょうか。

本市の課題のひとつと感じたのが、3歳児になると保育所（園）から幼稚園へ入園する幼児が多く、そのため少人数の在籍となる4・5歳児の存在です。各所（園）で工夫されてはいましたが、同年齢の集団の中で獲得していく力が十分に身に付くように、地域の関係機関との連携を図る必要性を強く感じました。

4月から全面実施となる幼稚園教育要領や保育所保育指針でも、就学前教育と小学校教育との連携が一層求められています。12月の「幼児教育研修会」で異校種間での協議が実現したことが、今後の連携を進める「はじめの一步」となることを願っています。今年度の訪問でも、近隣の小学校や園（所）からの参加者を見かけましたが、来年度は公開保育の機会が増え、他園（所）の保育や環境を見たり、協議を通して互いの考えを伝え合ったりして、多様な見方や考え方に気付く経験が積まれることを期待しています。

今年も素敵な子どもたち、先生との出会いがありました。善通寺市内の幼稚園、保育所を回って、元気いっぱいの活動的な子どもたちの姿と、先生の自信に満ちた保育への姿勢が、みごとに調和していました。子どもたちの先生への信頼が、保育の場面を、明るく快活なものへと作り上げていました。

善通寺市の幼児教育の推進体制構築事業も2年目を迎え、今年度は研修会を偕行社で開催することができました。12月26日、当日は市内の幼稚園、保育所の先生方のみならず、小学校の低学年担当の先生方も集まってくださったことが、研修会の意義を明確に示すものとなりました。幼小連携という言葉はよく聞かれるようになりましたが、それを実質化するためにも子どもの成長を、教育機関として連続して共有することが大切であることを再確認しました。学びの主体は子どもであることを考えれば、当然のことかも知れません。

県教育委員会の研修を受けた2名の発題は、内容もさることながら、発表の仕方に素晴らしいものを感じました。高ぶることなく媚びることなく、学びの成果がいかに満ち足りたものであるかを、みんなに伝えたい、共有したいという思いがメッセージとなって、温もりとして心地よい響きをもたらしてくれました。その後にもたれたグループ討議も、初めての顔合わせに多少のためらいを感じつつも、発題をもとに、それぞれの現場での特異性、それぞれ個々人の教育観、子ども観を披露しあうものでした。教育という業は、理論の学びと実践が両輪となって初めて前へ進むものだと思っています。実践だけでは独りよがりになり易く、学びだけでは、現場に立つ人間としては、そもそも意味がありません。そして、学びと実践の両輪は、子どもたちの未来へとつながって、大きな成果を生むものと期待されるものです。

折しも新しい幼稚園教育要領が平成29年3月末に告示され、1年間の移行期間を経て平成30年4月1日より完全実施されることになりました。今回の改訂は、保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領とともに並行して実施されたものであり、幼児教育の重要性が、共通の指針のもとで明確に示されたものと考えられます。そこには「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が示されています。幼稚園でも保育園でも認定こども園でも、目指すべき子どもの姿は同じで、それに向けての指導の方法を共有することができます。上述した研修会も、以前にも増してその重要性が意味付けられてきます。

今回の改訂のもう一つのポイントは、保幼・小・中・高・大までの教育課程を一貫した理念のもとで捉え、幼児教育をそのスタート・カリキュラムとして位置づけたことにあります。その理念とは「三つの柱」と呼ばれるもので、目指すべき資質・能力として「①知識及び技能」、「②思考力、判断力、表現力等」、「③学びに向かう力、人間性等」が示されています。数年前からさかんに言われるようになったアクティブ・ラーニングも、幼児教育の現場を見れば、アクティブ・ラーニングそのものだということが良く分かります。スタート・カリキュラムとしての位置づけは、学校教育全体をもう一度吟味するためにもこの時期に適ったものとみることができます。子どもたちと先生の笑顔が、これから先も園庭いっぱいに広がることを祈って、2年目のまとめとします。

幼児教育の推進体制構築事業も2年次となり、市内各幼稚園、保育所・園にお邪魔する度に回を重ねることの大切さを改めて感じる1年でした。1年目は訪問する私たちも、訪問を受けてくださる先生方も、緊張してお互いに距離感がありましたが、2年目になって現場の雰囲気も普段着で日常の保育を見せてくださるものになり、私たちも一緒に保育を楽しませていただく心の余裕が生まれてきた気がいたします。そして、今年度の訪問では、日々保育をなさる中から紡ぎだされた問いを私たちに投げかけ、ご一緒に考えるという場面も飛躍的に増えたとの印象を抱きます。立場を越えて、「すべては子どものために」を目的として共有できるための土壌が生まれつつあるという気がいたします。そこまで、忍耐して私たちを受け入れ、保育を見せてくださり、課題を共有しようとお努めくださる各園の皆さまに心よりの敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

また、今年度は初めての試みとして保幼小合同の研修会が実現いたしました。皆が同じDVDを鑑賞しつつ、異なった視点からの読み取りを分かち合うことができたと感じます。こうした試みでは、なかなか発言そのものがしにくいことですし、まして本音で意見をぶつけ合うのは、お互いのあいだによほどの信頼感がなければ不可能です。訪問と同じく、この試みについても、繰り返し回数を重ねていくことが必要であると確信いたします。皆さまが忍耐を持って育てていってくださることをお願いいたします。

さて、訪問を通して気付かされたいくつかの具体的課題を少し上げたいと思います。

1 新しくなった幼稚園教育要領、保育所保育指針の学びの機会を持つことの必要性

各園・所では保育業務があまりにも多忙で、学習会を持つことは難しいのではないのでしょうか。講習会で一方的に講演を聞くという方法ではなく、一緒に読み込み理解を深め合う場が欲しいと思います。

2 子どもの発達理解、こども理解を絶えず磨き続ける必要性

先生方は十分理解しておられますが、それでもなお時には立ち止まり、振り返り、互いの保育から学びあう機会を持つことが、保育の力を高めるために必要と思われます。その年齢らしい生き生きした姿が見られるためには、子どもたちがそれぞれの年齢・発達段階を十分に経験することが求められます。時折、個々の段階を前倒したり、飛ばしたりして早く大人びた姿に到達させようとの意図が伺えることがありましたので、上げました。

3 虐待や貧困など、子どもたちを取り囲む現代的な問題についての知識の必要性

子どもの権利を守る最前線としての保育所・園、幼稚園に課せられた役割はますます重くなる一方です。新しい情報、新しい研究成果に触れられることが先生方の自信を深め、相談援助の際の力となると思います。

どうぞ、来年度も現場から、どんどん「こんなことをしたい」との提案を下さいますようお願いいたします。

おわりに

本年度も、市内の全保育所（園）、幼稚園の所長、園長を始め、多くの保育者の方々に本事業へのご理解とご協力をいただき、調査研究を行うことができたことに心から感謝いたします。そして、各保育所（園）、幼稚園において、幼児教育の内容がさらに充実し、教員の資質向上が図られたことを大変うれしく思います。

善通寺市では、平成27年11月に策定した「教育施策の大綱」に基づき、保・幼・小の連携、小・中の連携を密にし、子どもたち一人一人の15年間を見すえた育ちと学びの連続性を大切に、「これからの時代に必要となる資質・能力」を育みたいと考えています。本事業の取組が、保育者同士や小学校教員に互いの保育や教育の理解をうながし、相互に自らの指導を振り返り、さらなる改善について考えるきっかけになることを願っています。

【2年次の成果】

- ① 2年次は、環境構成や保育者の役割等に対してより具体的な指導をいただくために、全所・園に日案（デイリープログラム）及び保育指導案の作成を依頼した。そして、全所・園を県幼児教育スーパーバイザー、市幼児教育アドバイザー、教育長、指導主事が2回ずつ訪問し、直接保育者に指導や助言を行う時間を十分に確保した。

また、全所・園、小学校に書籍を配布し、園内研修の充実や小学校へのなめらかな接続を図るための取組を促した。

- ② 2年次は各所・園への訪問日時や指導者名等を一覧表にして、早めに保・幼・小に知らせ、相互参観をすることのメリット（各所・園の保育の様子を知ることができる、ネットワークの広がり等）を伝えることにより相互参観者が増えた。

しかし、参観時間が保育時間（授業時間）と重なるため、保育者や教員の参加は難しかったことから、冬季休業中に善通寺市幼児教育研修会を開催した。

その研修会には保・幼・小の教員等約80名が参加し、保育や異校種間の連携等について活発に協議し、相互理解を深めた。



③ 3年次の取組に活用するため、10月に「園内研修の実態調査」を、2月に「2年間の取組の振り返りアンケート」を実施した。

④ 3月に、各所・園訪問時の日案（デイリープログラム）や保育指導案等の実践事例を掲載した本冊子を、全保育者と小学校等関係機関に配布する。

互いの所・園での生活リズムや保育内容を知ること、適切な段差のある、円滑な接続ができるのではないかと考えている。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明確化

5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである

幼保連携型認定こども園・幼稚園・保育所の職員と小学校の教員が持つ5歳児修了時の姿が共有化されることにより、小学校教育との接続の一層の強化が図られることを期待。

「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個に取り出されて指導するものではないことに留意が必要。

7

（「新しい幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針の方向性について」

中央説明会資料（平成29年7月）より

【今後の方向性】

- ① 県幼児教育スーパーバイザー、市幼児教育アドバイザー等が、全所・園を訪問し、保育参観及び園内研修に参加する。

保育参観を通して幼児理解に基づいた適切な援助や環境構成、若年保育者の指導力を向上させる園内研修のもち方等について指導や助言を行い、市全体の幼児教育の質を向上させていく。

- ② 講師を招へいしたり、DVDを活用したりして、全所・園の保育者を対象に、新幼稚園教育要領や保育所保育指針に基づいた子ども理解や実技研修等の研修機会の充実を図る。

- ③ 保・幼・小の連携・接続のさらなる推進を図るため、引き続き相互参観を促すとともに、情報交換をしたり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有したりする場をもつ。



- ④ 3年間の本事業の成果をまとめるとともに、保育指導案や園内研修のもち方等についての実践事例集（3年間のまとめの冊子）を作成する。

最後に、善通寺市の保育所（園）、幼稚園の訪問及び研修会において、温かく、適切な指導や助言をくださった県幼児教育スーパーバイザーの永田洋子先生、森あい子先生、市幼児教育アドバイザーの杉本孝作先生、得永幸子先生、香川県教育委員会事務局義務教育課の九郎座仁美主任指導主事に感謝申し上げます、引き続き、ご指導・ご助言を賜われますようお願い申し上げます。

平成30年3月

善通寺市教育委員会



善通寺市